



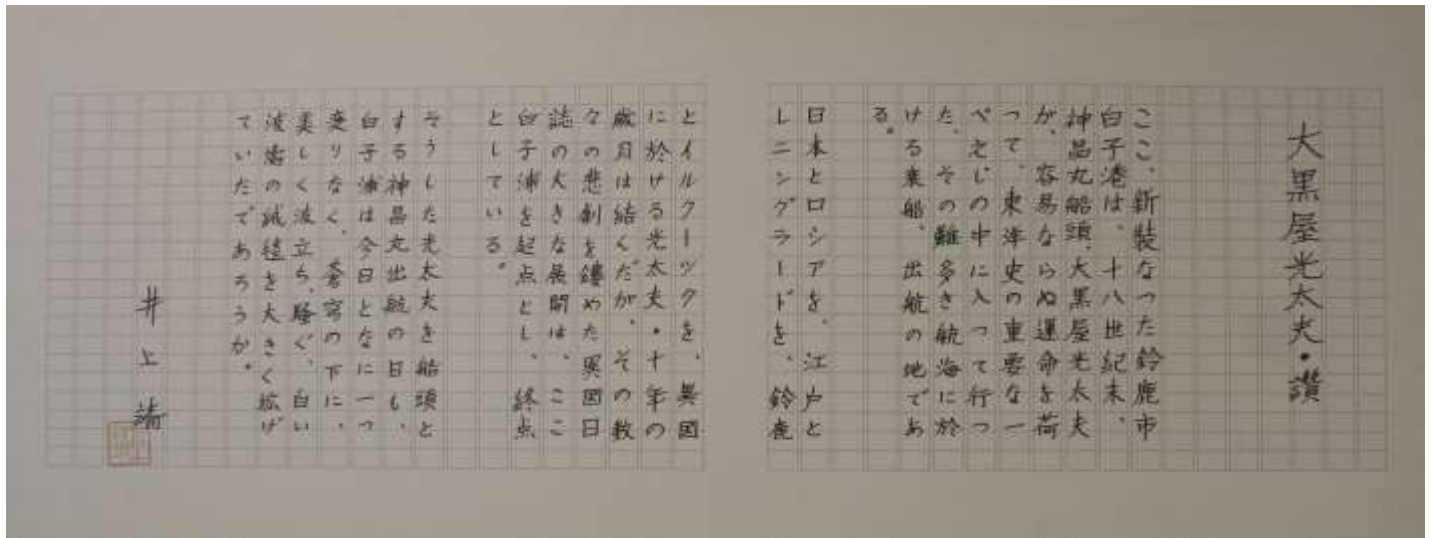
ダイ・コー

大黒屋光太夫記念館だより



2019 年 4 月

漂流ミュージアム 大黒屋光太夫記念館



井上靖「大黒屋光太夫・讃」 鈴鹿市 平成 2 年 (1990)

白子新港を緑地公園に整備するにあたって、平成 4 年に井上靖の文学碑および大黒屋光太夫のモニュメント「刻の軌跡」が作られました。これはその文学碑の原稿です。

神奈川県立近代文学館には、この「大黒屋光太夫・讃」の 3 種の詩稿が保存されており、推敲の過程を知ることができます。大黒屋光太夫らの帰郷文書発見を受け、『おろしや国酔夢譚』では故郷の土をふむことができなかつた光太夫の旅を、「ここ白子浦を起点とし、終点としている」と表現するまで、井上靖は何度か原稿を書き直しています。史実と史料に向き合う真摯な姿がそこには見てとれます。

(詳しくは、大黒屋光太夫記念館第 11 回特別展「井上靖「おろしや国酔夢譚」の世界」図録をご参照ください。)

特集：井上靖『おろしや国酔夢譚』と吉村昭『大黒屋光太夫』を読む

春の企画展「光太夫の里帰り」

従来、大黒屋光太夫は、帰国後一度も故郷の土を踏むことなく、江戸で幽閉されて生涯を閉じたと考えられてきました。しかし、1986年に発見された古文書により、その解釈に変化がありました。ロシアから帰国後、江戸で暮らしていた光太夫は、享和2（1802）年の春、一度だけ許されて故郷・鈴鹿の土を踏んでいたのです。白子の湊を船出し漂流してから、20年ぶりの里帰りでした。

春の企画展では、鈴鹿市指定文化財「大黒屋光太夫らの帰郷文書」からわかる光太夫の里帰りの様子を紹介しています。

また、映画化もされ大黒屋光太夫のイメージを人びとに定着させた井上靖『おろしや国酔夢譚』と、帰郷文書などの新史料の発見によって新たな解釈から光太夫を描いた『大黒屋光太夫』の2つの作品について、比較した展示を行なっています。



芝蘭堂新年会図（部分 鈴鹿市蔵）

芝蘭堂新年会
芝蘭堂は、大槻玄沢が開いた蘭学塾です。玄沢は、寛政六年（一七九四）閏十一月十一日が西暦で一月一日にあたることを記念して、西洋式のパーティを開きました。ロシアから帰国した光太夫もこの会に招かれています。その様子は描いた「芝蘭堂新年会図」も残されています。
井上靖と吉村昭は、この会に出席した大黒屋光太夫の心理をどのように描いているのでしょうか。

光太夫は、参会者が自分を単なる異国からの帰還者としてではなく、豊かな異国についての知識をそなえた人物として畏敬の念をいだいているのを感じた。玄沢にうながされて洋学者たちはつぎつぎに光太夫に質問をはじめたが、それはもっぱらロシアの医学に関するもので、光太夫は、あらためてかれらが西洋の医学知識を熱心に吸収しようとしているのを知った。
(中略)
やがて会はお開きになり、光太夫は学者たちとなごやかに別れの挨拶を交し、用意してくれた駕籠に乗って芝蘭堂をはなれた。その日のオランダ正月への出席は、かれにとって快いものであった

— 『大黒屋光太夫』より —

光太夫は椅子に腰かけて求められるままにロシア文字を揮毫したり、ロシアに関する質問に答えたりした。光太夫はいかなる質問に対しても、自分の知っていることは全部話そうとする態度をとった。併し相手が蘭学者ばかりであるにしても、吹上上覧所に於ての場合と同じようになお話すのを憚らねばならぬこともあったし、話しても理解して貰えぬだろうと思われることもあった。会の中頃、光太夫はひどく無気力になっていた自分に気付いた。ロシアのことについて語れば語るほど、気持ちさが沈み、心が衰えていくのをどうすることもできなかった

『おろしや国酔夢譚』より

★ 亀井泓様から光太夫関係の書籍をご寄贈いただきました ★

亀井泓様から、15冊の書籍のご寄贈をいただきました。

いずれもご尊父・亀井高孝先生の著作で、下記の通りです。

- ・ 亀井高孝「人物叢書 大黒屋光太夫」(昭和39年版) 2冊/
- ・ 亀井高孝「人物叢書 大黒屋光太夫」(昭和62年版) 4冊/
- ・ 亀井高孝「光太夫の悲恋」 2冊/
- ・ 亀井高孝「北槎聞略」(昭和40年版) 2冊/
- ・ 亀井高孝「北槎聞略」(岩波文庫版) 1冊/
- ・ 亀井高孝「北槎聞略」(平成元年版) 2冊/
- ・ 亀井高孝村山七郎中村嘉和「魯西亜弁語」 1冊/
- ・ 亀井高孝村山七郎「魯西亜文字集」 1冊 計 15冊

それぞれ1冊ずつカウンター奥に設置しましたので、御覧になりたいかたは、受付までお声掛けください。

亀井高孝先生のお墓参りに行って来ました

大黒屋光太夫顕彰会の小林会長と文化財課代田で、
念願だった亀井高孝先生のお墓参りに行って来ました。

2018年3月30日、第12回特別展の開催にあたって大変お世話になったご遺族の小野あき子様、太田光子様をお願いして、亀井先生の眠る鎌倉の瑞泉寺を訪れました。穏やかな春の日差しの中、桜の花を見ながら、ちょっとした散策気分でお寺のお庭を通り抜け、霊園の一番奥にある亀井先生のお墓にご案内いただきました。

数あるお墓の中で唯一、中世鎌倉の「やぐら」を思わせるような横穴の中に、黒光りする墓石が建てられていました。あき子様によると「寒がりだったおじいちゃんが暖かいように」横穴の中のお墓なのだそうです。

亀井先生に、生前にお待ちだった資料をご寄贈いただき、特別展で紹介させていただいたことなどをご報告させていただきました。光太夫の研究に先鞭をつけた亀井先生の業績を今後も折を見て紹介していきたいと思えます。



↑瑞泉寺にて 奥様の千代様と
(昭和40年前後か)



亀井先生の墓碑前で→
あき子様 光子様 小林会長

大黒屋光太夫が歌舞伎になります

歌舞伎座(東京銀座)の「六月大歌舞伎(夜の部)」にて、三谷かぶさ「月光露針路日本(つきあかりめざすふるさと) 風雲児たち」が上演されることになりました。これは、みなもと太郎原作の人気歴史漫画『風雲児たち』を、三谷幸喜作・演出による新作歌舞伎とするもので、大黒屋光太夫々の物語が中心となって描かれる予定です。

それに先立ち、2018年2月21日、出演予定の歌舞伎俳優・松本幸四郎さんが、ご本人の希望により、大黒屋光太夫を演じる役作りのため記念館にご来館されました。あわせて関係する史跡や寺社も訪問されました。

*『風雲児たち』は、関が原の戦いから幕末に至るまでの歴史を描いた人気漫画です。

★公演情報★

公演日 令和元年6月1日(土)～25日(火)

場所 歌舞伎座(東京と中央区銀座4-12-15)

詳しくは、歌舞伎座HP (<https://www.kabuki-za.co.jp/>) を御覧ください



光太夫像の前で

ご利用案内

日本がロシアと初めて公式に外交交渉を行ったのは、ペリー来航より60年以上前、ロシア皇帝エカテリーナ2世によって派遣されたラクスマンが蝦夷地に来航したときでした。ラクスマンは、ロシアに漂流した伊勢白子の船頭・大黒屋光太夫らの送還を名目とし、日本との通商関係の樹立を目的としていました。

ラクスマンの来航によって、日本が国を開くことはありませんでしたが、ロシアの情報を吸収して帰還した大黒屋光太夫は、その後は江戸に留め置かれ、多くの政治家や蘭学者に注目されて、蘭学の発展に寄与し、世の中に大きな影響を与えました。

大黒屋光太夫記念館では、特別展・企画展を通して、さまざまな視点から光太夫について紹介しています。

〒510-0224 三重県鈴鹿市若松中一丁目 1-8

Tel&Fax 059-385-3797

<http://suzuka-bunka.jp/kodayu/>

<http://www.city.suzuka.lg.jp/life/shisetsu/q209.html>



開館時間 10:00～16:00

休館日 月曜日（休日の場合は開館）・火曜日・第3水曜日

年末年始（12月28日～1月4日）

入館料 無料

アクセス

近鉄名古屋線急行利用 伊勢若松駅下車 徒歩15分

近鉄名古屋線特急利用 白子駅下車 タクシー利用10分

*東京・名古屋方面から：名古屋駅で近鉄名古屋線に乗り換えてください

名古屋駅→近鉄特急(40分)→白子駅→タクシー

名古屋駅→近鉄急行(46分)→伊勢若松駅→徒歩

*大阪方面から：近鉄特急が便利です

難波駅→近鉄特急(1時間45分)→白子駅→タクシー

難波駅→近鉄特急(1時間45分)→白子駅→近鉄急行(3分)→伊勢若松駅→徒歩

☆自家用車のナビで「大黒屋光太夫記念館」が検索されない場合、「若松小学校」を目的地にされると便利です。若松小学校の正門前が記念館です。



ダイ・コー 大黒屋光太夫 記念館だより

三重県鈴鹿市神戸一丁目 18-18
鈴鹿市文化スポーツ部文化財課

Tel.059-382-9031 FAX059-382-9071

<http://suzuka-bunka.jp/kodayu/>

鈴鹿市若松中1丁目 1-8

大黒屋光太夫記念館

大黒屋光太夫記念館のホームページが新しくなりました

大黒屋光太夫記念館



<http://www.suzuka-bunka.jp/kodayu>

*大黒屋光太夫記念館を所管する鈴鹿市文化振興部文化課は28年4月1日より鈴鹿市文化スポーツ部文化財課になりました。